

## 鈴木日出児という画家がいた

「館山にこんな絵描きさんがいたんですね。」

今年度の新収蔵資料展「鈴木日出児という画家」を開催した時の多くの方の感想です。

中央で活躍する画家が館山へ取材旅行に來たり、移住してくることは明治時代からしばしばありました。でも館山出身の画家で知られている方はきわめて少ないといえるでしょう。鈴木日出児もそうした画家のひとつです。決して名をはせたわけではありませんが、東京でそれなりの評価を得ていました。

本名は鈴木秀治といい、明治38年(1905)に現在の館山市沼で生ま



▲鈴木日出児 昭和5年(1930)

れました。館山へ移住していた壁画家寺崎武男の影響を受け、21歳で上京すると白木屋呉服店の陳列部・美術部などで働きながら、昭和初期に日本劇画協会や日本壁画協会に所属して美術活動に励んでいます。川端龍子や伊東深水、熊谷守一、猪熊弦一郎などと親交をもち、北大路魯山人のもとへも出入りしていますが、師がいるわけではなく、独立系の超然派といわれ、彼の絵は「独往高邁」と評されました。

演劇の役者や舞台を表現する「劇画」での活躍が知られ、昭和5年(1930)の第2回劇画協会展覧会で「楽屋の唐人お吉」や、昭和9年

の日本劇画協会美術展第6回展の「朝日のお染」が評価されています。昭和7年には銀座の旧服部時計店(現・和光)ビルの天井壁画に「宇治の楽園」という天女図を制作し、昭和10年の日本壁画家協会の設立にも参加しました。

昭和17年に白木屋デパートで初の個展を開催した際の個展評では、「巧みに相当描きこなしてはいるが未だ己れの骨格を得ていない」とさながら、「作者がもつばら意図しているのは(横山)大観的無の境地であろうか。筆法もよく酷似している。また大観以外の墨画からの影響も多分に見られる。一作の中に幾つもの作者が介在している」、「これだけの影響的なもので描き乍ら、作品の裏側で昂然と胸を張っている作者を見る。これら他人の筆法を己の中に接和して真に自分の骨法を打ち樹てる日を期されたい」と、若手の躍進を期待する評が述べられています。

しかし、太平洋戦争末期に洲ノ埼海軍航空隊の文官として勤務するため帰郷すると、戦後は画を描くことはなくなり、その後の大成をみることはありませんでした。

一昨年にご遺族から多くの作品を寄贈していただいたことで、改めて世に出た画家です。

## 耳で楽しむ八犬伝！

歴史教室「活弁八犬伝」

『南総里見八犬伝』は106冊におよぶ超長編作品です。原作の版本を館山城（八犬伝博物館）で常設展示していますが、ご覧になつたお客様から「こんなに冊数が多いと、いくら現代語訳されていても読もうという気にならない」という声が度々聞かれ、職員一同、心を痛めてい



ました。

そこで、生まれたのが錦絵やイラストを紹介しながら名場面をテンポよく語る「活弁八犬伝」という講座です。平成28年度には、八犬士である犬塚信乃と犬飼現八がお互いの正体を知らずに楼閣の屋根の上で戦う「芳流閣の決闘」、同じく八犬士の犬坂毛野が美女に化けて敵を倒す「対牛楼で敵討ち」の2回を行いました。担当職員はスラスラと名調子でお話しているつもりですが、犬だけにワンテンポ遅れていたら申し訳ございません。

なお、当館ではこのたび『博物館で学ぶ！八犬伝まるわかりBOOK』（300円）を発行しました。八犬伝博物館の展示と併せて読んでいただくと、8倍楽しい本となっております。ご希望の方は博物館受付でお願い求めください。

## 神戸のお宝大集合

新地区展「神戸―神々と共に生きる里―」

市内10地区の歴史と文化財を紹介する「新地区展」シリーズの第5弾として開催しました。7月の祭礼から展示調査を開始し、区長さんや寺社の総代さんなど地元の方々にご協力をいただきました。展示資料の中には、寺社に伝わる宝物や旧家の古文書など以前より知られていた品だけでなく、今回の調査で見つけた資料もあります。例えば、佐野区からお借りした半鐘。少し前まで火事を知らせるために使用され、現在も区民館の近くに掛けられているものです。今回の展示にあたり、区長さんより立葵紋があるという情報を伺い、確認すると確かにありました。伝



来した詳細は不明ですが、明治初期に安房へ移ってきた長尾藩本多家と関係があるかもしれません。

なお、本シリーズでは、毎回サブタイトルに担当者の熱い思いが込められています。神戸地区には古くからの神社が存在しているだけでなく、茂名の里芋祭りなどの特色ある神事が今も地域の人びとによって行われています。今回は、神様だけでなく「支えてきた人びと」に注目したいという思いから「共に生きる」としました。

## 博物館と図書館が

## タッグを組んだ

「なつやすみ宿題大作戦」

～調べよう、たてやまのこと～

夏休み中の博物館や図書館には、地域学習の宿題に取り組み小学生が多数来館します。その中には、「そもそもテーマが見つけれない」「知りたいことはあるけど調べ方が分からない」という子も…。こんなお悩みを解決するため、博物館学芸員と図書館司書がタッグを組みました。

8月に開催した講座では、第1回「テーマを見つけよう編」を博物館、第2回「調べてみよう編」を図書館で行い、合計8人の小学生が参加しました。博物館編では、テーマを見つけるためには、「これは何だろう」と疑問を持った時、モノをじっくり観察したりすることが大事という話をしました。この後、実際にさまざまな資料を観察。材料や形と使い方・目的との関係をそれぞれ考えました。



日頃からいろいろなことに疑問を持ち、観察するクセをつけると、博物館がもっと楽しくなりますよ。この講座は平成29年度も行う予定です。市内の小学生はお楽しみに！

ご協力に感謝します

寄贈資料名	寄贈者(敬称略)
古文書	館山市 安田 仁一
古文書 他	館山市 鈴木 保男
岩崎巴人作「猿」他	いすみ市 小高 友秀
斎藤光雲画「竹林図」(襖絵) 他	館山市 笹子 三喜男
古文書	館山市 安西 誠
密着式写真焼付機 他	館山市 御子神 康夫
パンフレット「房総半島」他	神奈川県 田村 成一
古文書	南房総市 鈴木 金司
典籍	館山市 杉田 恒雄
軍用蚊帳	館山市 岡野 和夫
万祝	館山市 高瀬 愛
新井区祭礼半纏	館山市 鈴木 正
富士講関係資料	館山市 渡邊 貴子
日本陸軍軍服	館山市 尾形 正子
大釜・桶 他	館山市 出山 裕之
オキバコ	館山市 伊東 良子
液用一升杵・油絞り機 他	南房総市 亀田 輝夫
加藤霞石書幅	南房総市 加藤 昭夫
戦没軍人肖像画	館山市 矢矧 文子
川名楽山画「始皇帝像」他	館山市 鈴木 健三
古文書	東京都 岡崎 泰士
飯台・ペーゴマ 他	南房総市 岡田 孝吉
館山海軍砲術学校関係写真 他	館山市 武田 一郎
用算筒・棹秤 他	南房総市 早川 正司
短刀(松岡金毘羅神社奉納物)	館山市 松岡区
風呂鍬	南房総市 佐藤 三郎

# たてはく 日々コラム

～館山市立博物館(たてはく)の日々のできごとを紹介します～

本館2階にある「ごろべえじいさんの家」をご存じですか？ 市内畑の300年前の民家を復元したもので、室内に上がってさまざまな道具に触れられる展示となっています。ここでは毎年、市内や近隣の小学生が「昔の暮らし」を学ぶ授業で訪れ、学芸員と一緒にクイズ形式で学習しています。

このとき、子供たちからよく聞かれるのが「ごろべえじいさんはどこにいるの？」という質問。「たぶん火除けのお札をもらいに  
行っているんじゃないかな」「畑で作業中かもしれない」というふうに教えてくれる子もいます。

子供たちのたくましい想像力に刺激されて、最近ではこちらも「今日のごろべえじいさん留守だけど、みんなは特別にお家へ上がって良いて言ってくれよ」と話しています。さあ、今日のごろべえじいさんお家にいるかな？

オラ、忙しいからよ！  
自由に上がって、  
ゆっくりして楽しんで。



## ピックアップ八犬伝

### 八犬伝の聖地巡礼

聖地巡礼とは、本来、宗教的に重要な場所(聖地)を訪れることですが、最近ではアニメや物語の舞台である地域や施設を「聖地」と表現し、これらを訪問することも聖地巡礼と呼ばれています。実は、江戸時代に大人気を博した『南総里見八犬伝』に登場する場所も、近代の紀行文や観光ガイドブックで紹介されています。

鴨川在住の磯谷武一郎が、大正6年(1917)に安房の名所や伝承を紀行文風に紹介した『房州見物』では、富山について、「この山が世に知られたのは馬琴の作品のおかげである」と記し、富山で過ごす伏姫と八房の様子を、八犬伝の版本から抜粋して紹介しています。また、当時の観光ガイドブックでは、伏姫が籠もった岩窟や幼い頃に役行者と出会った養老寺などが紹介されています。これらは、今風に言えば「八犬伝の聖地」ということになるでしょう。

八犬伝は実在する場所にフィクションの設定を盛り込むことで、より臨場感のある作品となっていますが、実は作者の馬琴は房州を訪れたことはなく、房州について書かれた地誌や歴史書などの資料をもとに執筆しました。作者も訪れたことのない「聖地」を、読者が訪れるというのも不思議な話ですね。



磯谷武一郎著『房州見物』



# 博物館のできごと〈ダイジェスト〉

平成28年4月～29年2月

平成28年4月

3日 歴史体験教室「甲冑を着よう」開催（毎週日曜・祝日に実施）。

18日 台湾の高校生が教育旅行で来館。館山城見学と甲冑着用を体験。

27日 台湾の雑誌「T O G O」が館山城取材。

28日 本館で「めざましどようび」（フジテレビ）撮影。甲冑着用体験を紹介。

◆5月  
28日 新収蔵資料展第1期「あたらしい資料のご紹介」開催（～7月10日）。

同日 「ミュージアム・サポーター絵図士養成講座」開催。

◆6月  
4日 館山市文化財保護協会と共催の「安房学講座」開催（全8回）。

18日 歴史教室「古文書を読んでみよう」開催（全10回×3クラス）。

23日 渚の博物館で「フィッシングカフェ」（釣りビジョン）撮影。

25日 「ミュージアム・サポーター甲冑士養成講座」開催。

◆7月  
15日 博物館協議会開催。

16日 新収蔵資料展第2期「鈴木日出児という画家」開催（～9月4日）。

23日 歴史教室「活弁八犬伝」開催（全2回）。

◆8月  
5日 図書館との共同企画「なつやすみ宿題大作戦」開催（博物館編。図書館編は8月19日に開催）。

8日 花火大会の延期を受け、観光客向けに館山城を臨時開館。

9日 南房総市立白浜中学校1名が職場体験（～12日）。

25日 大学生による学芸員資格取得のための実習（～9月1日）。

29日 館山城の常設展示を一部入替。

◆9月  
21日 行田市郷土博物館へ海防関係資料貸出。

28日 東北歴史博物館へ捕鯨関係資料貸出。

◆10月  
8日 新・地区展「神戸―神々と共に生きる里―」開催（～11月27日）。

30日 韓国国立民俗博物館による服飾資料調査（～11月2日）。

◆11月

6日 歴史教室「わたしの町の歴史探訪―洲宮・茂名―」開催。

8日 市立館山第二中学校3名が職場体験（～10日）。

15日 渚の博物館で「明日への扉」（ディスカバリーチャンネル）撮影。

25日 市立館山小学校3名が職場体験。

◆12月  
6日 館山城でさかなクン出演の市紹介PV撮影。

10日 真田宝物館による資料調査。博物館大掃除。

◆平成29年1月  
1日 館山城正月臨時開館（～3日）。城前の出店で八犬伝グッズを販売。

4日 館山城で舞台「里見八犬伝」PR番組（日本テレビ）の撮影。

10日 館山城・渚の博物館で「歴史の道歩き旅」（テレビ東京）の撮影。

◆2月  
4日 収蔵資料展「装いの用と美」開催（～3月20日）。

23日 館山城前で「みんなのニュース」（フジテレビ）内天気予報を生中継。

## たてはくニュース! 私たちが展示しました

博物館では、毎年市内の小中学生が職場体験を行います。昨年11月には、市立第二中学校の生徒3名が3日間の職場体験を行い、渚の博物館常設展示室で展示作業を体験しました。担当したのは豊漁の祝いで「万祝(まいわい)」のコーナー。当館が所蔵する150点以上の万祝の中から6点を選び、説明キャプションを作成。収蔵庫から運んだ万祝を注意深く展示しました。さらに、それぞれ1点を選び、「おすすめポイント」も書いてもらいました。

また、館山小学校の3名は博物館本館の2階でミニ写真展の展示を行いました。半日という短い時間で、パネルの撤収、写真の入れ替えと展示作業を行いました。パネルをまっすぐ並べるのが意外に難しく、3人で声を掛け合いながら展示しました。今回の体験を通じて、ますます博物館の展示に興味を持ってもらえると思います。皆さんも、小中学生の体験の成果をぜひご覧ください！

